

# トラック輸送情報（平成17年5月分）

平成17年8月11日

国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課

担当：高橋、荒木、荒井 内線28315

直通：03-5253-8342

ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

## 1. 特別積合せ貨物

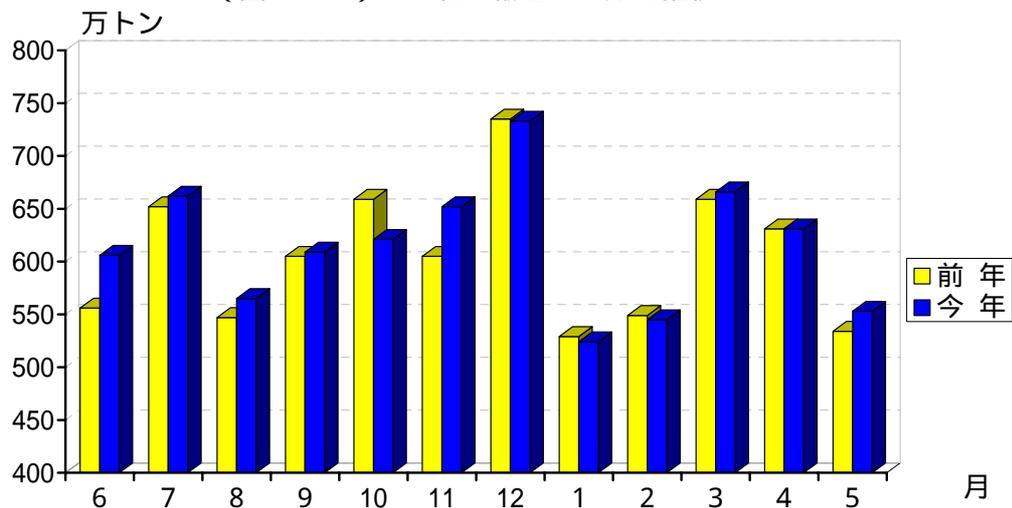
### (1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、5,531,004トンで、前月と比べ、総輸送量が約78万トン減少したため、前月比87.6%（季節調整済み96.2%）前年同月と比べ、約19万トン増加したため、前年同月比103.5%の実績であった。

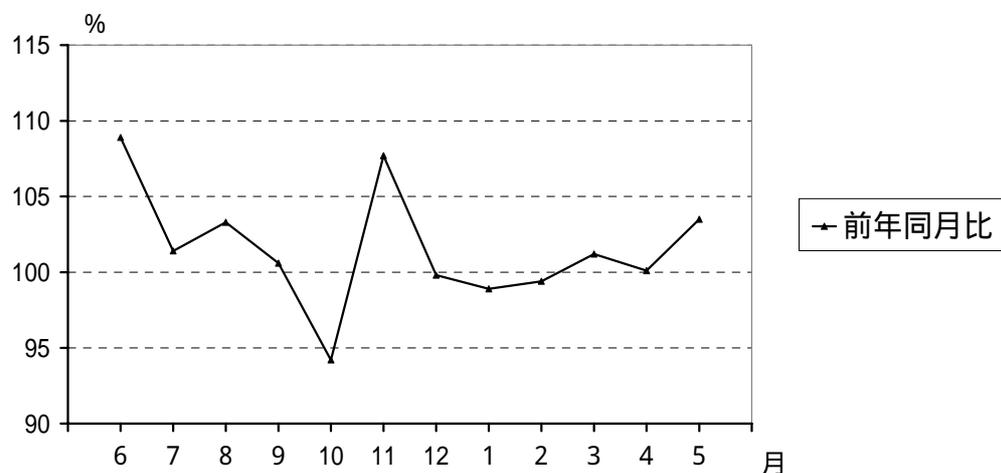
なお、平均稼働日数は、21.9日で、前月と比べ1.5日の減少、前年同月と比べて、0.1日の増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、252,557トンで、前月と比べ、約1万7千トン減少したため、前月比93.6%、前年同月と比べ、約8千トン増加したため、前年同月比103.1%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

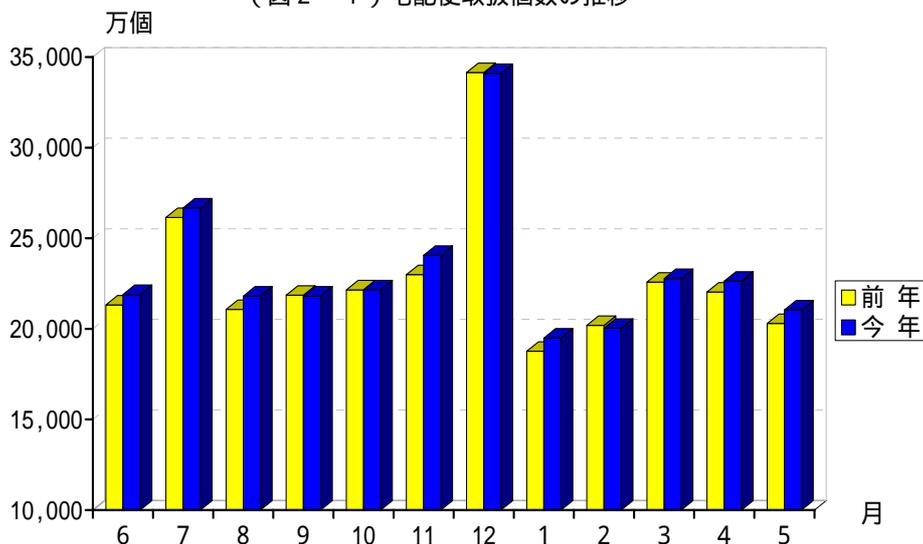


## (2) 宅配便の概況

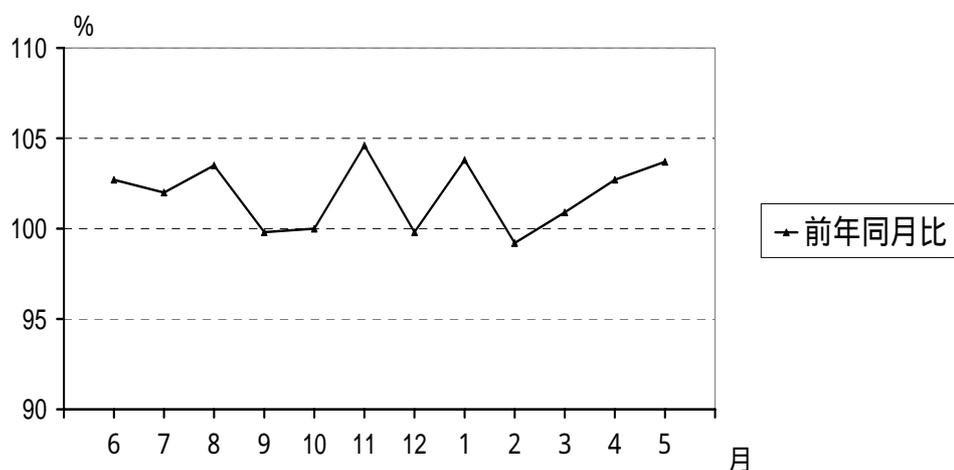
調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、210,476 千個で、前月と比べ、約 1,584 万個減少したため、前月比 93.0% (季節調整済み 98.5%)、前年同月と比べると、約 748 万個増加したため、前年同月比 103.7%の実績であった。(図 2 - 1、図 2 - 2 参照)

(注)平成 17 年 2 月より調査対象のうちの 1 社が宅配便の扱いを中止したため、宅配便調査対象が 19 社となっている。なお、当該事業者の宅配便におけるシェアが小さく(平成 17 年 1 月で全宅配便個数の約 0.02%)、影響が小さいことから、前年同月比は 20 社のデータと比較している。

(図 2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



## (3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、連休などに伴って稼働日数が 1.5 日減少したこともあり、貨物量が全般的に減少した。理由としては、工場・生産地からの貨物減及び季節的需要減であった。また、金属製品、化学工業品においては、倉庫から出る貨物減が見られた。地域的には、中国において農水産品の増加が見られたほかは、全ての品目において、東京、大阪を中心に全国的に減少が見られた。

前年同月と比べると、機械、化学工業品、食料工業品、日用品で、工場・生産地、商社・問屋及び倉庫からの貨物増が見られた。地域的には、機械、化学工業品、食料工業品について、東京、大阪を中心に増加が見られた。その他の品目では目立った増減を示したものはなかったことから、全体的には前年同月比 103.5%となった。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因	
	著増	増	変らず	減	著減				
前月に比べて	農水産品	1	1	10	3	1	青果物	中国	4
							野菜、青果物	東京、神奈川、関東	
	金属製品		1	16	8		その他の金属製品	中部、中国ほか	4, 7, 8
			1	12	12	1	その他の機械、機械部品	東京、神奈川、近畿ほか	4, 8
	化学工業品		1	11	16		塗料、合成樹脂、その他の化学工業品	神奈川、関東、大阪ほか	4, 7, 8
				20	7		糸、織物	神奈川、愛知、中国ほか	4, 8
	繊維工業品		1	10	14	2	飲料、その他の食料工業品、加工食品	東京、関東、中国ほか	4, 8
				15	12	1	書籍・印刷物、文具、その他の日用品	東京、神奈川、関東ほか	4, 8
日用品		2	17	7		百貨店配送品			
						宅配貨物、百貨店配送品、引越し	神奈川ほか	4, 8	
前年同月に比べて	農水産品	2	12	3				4	
							野菜	関東、中国、九州ほか	4
	金属製品	5	18	3				北陸信越、近畿ほか	4
			6	19	1	1	機械部品	兵庫ほか	4
	化学工業品	9	15	4			その他の化学工業品	東京、神奈川、大阪ほか	4, 7
							その他の化学工業品	大阪	4, 7
	繊維工業品	4	20	4			織物	東京、神奈川ほか	4, 9
							織物	中国	4
食料工業品	9	14	3	1		加工食品	東京、神奈川、関東、大阪ほか	4, 5, 7	
		7	16	4		その他の日用品	東京、愛知、大阪、兵庫ほか	4, 5	
日用品						書籍・印刷物	神奈川、関東ほか	4, 5, 7, 9	
		3	19	5		宅配貨物	全国		
その他						百貨店配送品	神奈川	2	

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

増減要因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

## 2 . 一般貨物

### (1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 833 社 / 調査対象事業者数 1,078 社）の輸送量は、前年同月比 101.8%、前月比 96.3%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	101.8%	103.3%	102.1%	101.6%	104.1%	96.2%	101.0%	103.0%	103.6%	101.7%	91.3%
前 月 比	96.3%	107.4%	94.9%	96.1%	96.2%	87.8%	93.4%	89.8%	94.7%	92.4%	91.4%

### (2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、季節的な需要減により、「その他の石油製品（暖房用灯油）」が減少傾向を示したが、各種工事が活発化してきたことに伴い、「砂利・砂・石材」等の工事関連資材の輸送が増加した。このため、対前月比 107.4%、対前年同月比 103.3%と、共に増加した。今後の輸送の見通しは、工事関係の本格化に伴って工事関連資材の増加が期待でき、上昇傾向で推移するものと思われる。</p>
東北	<p>本月の輸送は、連休の影響により車両の実働率及び輸送量が先月よりも減少したため、対前月比は 94.9%、対前年同月比は 102.1%であった。品目別に見ると、季節的な需要減により、「その他の石油製品」「化学肥料」が減少した。また、「食料工業品」などの減少が目立った。 今後の輸送の見通しは、次月及び以降とも増加傾向にあると思われる。</p>
関東	<p>本月の輸送は、連休による稼働日数の減少が影響し、全体的には対前月比 96.1%と減少した。しかし、対前年同月比で見ると 101.6%と増加した。品目別に見ると、季節的な要因により、「食料工業品」が増加した一方で、公共事業等の減少により「工業用非金属鉱物」「機械」「金属製品」「その他の窯業品」が減少した。 今後の輸送の見通しは、次月及び以降とも減少傾向にあると思われる。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、全体的には、連休による稼働日数の減少によって輸送量が減少したため、対前月比は 96.2%となったが、対前年同月比は 104.1%と増加した。品目別に見ると、気候が暖かくなってきたことにより、ジュース等の「食料工業品」の増加が見られ、「その他の石油製品」の減少が見られた。 今後の輸送の見通しは、次月及び以降とも増加傾向にあると思われる。</p>
中部	<p>本月の輸送は、連休による稼働日数の減少、公共工事の減少等により、対前月比 87.8%、対前年同月比 96.2%と、共に減少した。品目別に見ると、「セメント」「日用品」「その他の窯業品」「その他の化学工業品」が増加したものの、公共工事の減少等により、「機械」をはじめ、「金属製品」「繊維工業品」などが減少した。 今後の輸送の見通しは、次月及び以降とも若干増加が見込まれる。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、引越シーズンが過ぎたことにより「取り合せ品」が減少したこと、連休の関係により稼働日数が減少したことで、「日用品（文具）」「食料工業品」「機械」などの減少が目立った。このため、対前月比 93.4%、対前年同月比 101.0%となった。 今後の輸送の見通しは、次月は増加、以降は横ばい傾向にある。</p>
中国	<p>本月の輸送は、連休に伴う顧客・得意先の休業により、対前月比 89.8%、対前年同月比は 103.0%であった。品目別に見ると、「木材」「砂利・砂・石材」「取り合わせ品」をはじめとして、多くの品目が減少した。 今後の輸送の見通しについては、次月は増加傾向、以降はほぼ横ばい傾向にある。</p>
四国	<p>本月の輸送は、連休による稼働率の低下により、対前月比 94.7%、対前年同月比で 103.6%となった。品目別に見ると、季節的需要により「食料工業品」「日用品」などが増加した一方、「野菜・果物」などが減少した。また、建設工事の減少により、「木材」「砂利・砂・石材」などが減少した。 今後の輸送の見通しは、次月及び以降とも若干の減少傾向にあると思われる。</p>
九州	<p>本月の輸送は、連休により稼働日数が少なかったため、対前月比は 92.4%となったが、対前年同月比は 101.7%と増加した。品目別に見ると、「野菜・果物」「食料工業品」は、季節的需要増により輸送量が増加した。一方、「砂利・砂・石材」「セメント」等の建設工事に関連する品目は、主に公共工事件数が減少したことにより輸送量が減少した。今後の輸送の見通しは、次月及び以降とも減少の傾向とみられる。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、対前月比 91.4%、対前年同月比 91.3%と、共に減少した。品目別に見ると、「その他の農産品（葉たばこ）」「水産品（マグロ）」「金属くず」で増加が見られ、「紙・パルプ（ロールペーパー、段ボール）」で減少が見られた。 今後の見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は夏場に向け増加傾向が予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目		運輸局										
		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	0	4	0	0	0	0	1	0	2	0	7
	減	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
2. 野菜・果物	増	0	0	0	1	0	0	1	1	8	0	11
	減	0	1	1	1	0	0	0	5	3	0	11
3. その他の農産品	増	1	1	0	0	0	0	0	1	0	1	4
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
4. 畜産品	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
5. 水産品	増	0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	4
	減	0	1	0	0	0	0	2	0	1	0	4
6. 木材	増	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	5
	減	2	2	0	0	0	1	4	2	3	0	14
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	3
	減	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
9. 金属鉱物	増	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
10. 砂利・砂・石材	増	17	2	0	0	0	0	0	0	2	0	21
	減	3	1	0	2	0	1	3	2	4	0	16
11. 工業用非金属鉱物	増	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	4
	減	0	1	1	0	0	0	1	0	2	0	5
12. 鉄鋼	増	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0	4
	減	2	2	0	4	1	1	1	1	1	0	13
13. 非鉄金属	増	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3
	減	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	3
14. 金属製品	増	0	1	1	0	0	0	0	0	1	0	3
	減	0	2	2	3	1	1	2	0	0	0	11
15. 機械	増	1	0	3	1	0	1	0	1	0	0	7
	減	0	2	2	1	4	3	1	2	2	0	17
16. セメント	増	0	1	0	1	1	0	2	0	3	0	8
	減	2	2	0	0	1	1	4	0	4	0	14
17. その他の窯業品	増	1	2	0	0	1	0	0	0	1	0	5
	減	0	0	2	3	0	1	2	1	0	0	9

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸 信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		18. 揮発油	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	1	0	0	1	0	0	1	1	0	0	4
19. その他の石油製品	増	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	減	3	3	1	2	0	0	2	1	0	0	12
20. コークス・ その他の石炭製品	増	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21. 化学薬品	増	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	減	0	1	0	2	0	1	1	1	1	0	7
22. 化学肥料	増	2	0	0	0	0	0	0	1	2	0	5
	減	3	3	1	1	0	0	0	0	1	0	9
23. その他の化学工業品	増	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	0	0	3	2	0	0	0	5
24. 紙・パルプ	増	0	2	3	0	0	1	0	0	1	0	7
	減	2	0	0	1	0	0	1	1	1	1	7
25. 繊維工業品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
26. 食料工業品	増	1	0	2	1	0	0	1	4	8	0	17
	減	4	5	0	0	0	3	1	2	5	0	20
27. 日用品	増	0	0	0	1	1	1	0	2	0	0	5
	減	3	0	0	0	0	2	2	1	1	0	9
28. その他の製造工業品	増	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	4
	減	0	0	1	0	0	2	1	1	1	0	6
29. 金属くず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
30. その他のくずもの	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
31. 動植物性飼・肥料	増	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	3
	減	0	3	1	0	0	0	0	0	3	0	7
32. 廃棄物	増	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
	減	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3
33. 輸送用容器	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	3
34. 取り合せ品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	1	1	0	0	3	3	3	4	0	15
35. その他	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	4